

高等部学習指導案（細案）

家庭科（くらし） Dグループ

「アイロン掛けをしよう」

家庭科（くらし）学習指導案（細案）

平成21年2月6日 金曜日 2校時
高等部 くらしDグループ
男子5名 女子4名 計9名
場所 被服室
指導者 鶴田智美 (CT) 笹河博幸 (ST1)
末廣剛志 (ST2)

1 題材 「アイロン掛けをしよう」

2 題材について

(1) 題材設定の理由

〈生徒の実態〉

本グループは、各学年3名ずつ、計9名の生徒で構成されている。衣服に関しては、生徒たちはこれまでに、TPOに合わせた衣服の選択や洗濯の仕方などについて学習してきている。家庭では自分の役割として、洗濯物の取り入れや畳み、作業学習の中でアイロンを使用した作業に取り組んでいる生徒もいる。また、本グループには一般事業所への就労を目指す生徒もおり、面接や産業現場等における実習時に社会人にふさわしい身だしなみの意識を高めることも必要とされている。しかし、学習してきたことが家庭や学校生活において十分に生かされているとは言い切れない。しわのあるシャツをそのまま着たり、雑な畳み方やハンガーへの掛け方で、しわを付けてしまったりする生徒もおり、清潔な衣服を着用することや身だしなみを整えることについて意識を高める必要がある。また、保護者からのアンケート結果によると、衣服の手入れに関する家庭での役割は、スイッチ一つでできる洗濯よりも、その後の干す、畳む、収納、ボタン付けなどへのニーズが高い。生徒たちは高等部入学以前に衣類の手入れとして洗濯やアイロン掛けについては、授業では取り組んだことがあるが、役割として定着するまでに至っていないことが多い。題材前のアイロン掛けに関する実態調査でも、技術面において定着していない実態が見えた。それは、生徒も保護者も役割や自分で行うべきこととする認識が低く、家庭で繰り返し取り組む場面がなかったことやワイシャツ等への正しい掛け方を知らないことが理由として考えられる。

〈題材の意義・価値〉

このような生徒の実態を踏まえて本題材ではアイロン掛けに取り組むことにした。アイロンはどの家庭にもある道具で、授業の中でも一人で一台を操作することができる。また、掛ける前とその後でははっきりと見て分かる変化があり、生徒が気付き評価をすることで、掛け方を改善したり、工夫したりすることができる。アイロンの技術を学ぶ際、身だしなみの意識の向上や、制服のワイシャツへのアイロン掛けをすることで、自分のことは自分ですするという意識にもつながるのではないかと考える。

〈ねらい〉

本題材では、自分でできる衣服の手入れとしてアイロン掛けがあることを知り、アイロンの仕組みや操作を理解し、安全に正しく使用できるようにする。また、アイロン掛けの手順等を理解し、家庭でも取り組もうとする意欲や態度、身だしなみを整えようとする態度を身に付けることができるようにしたい。

〈指導観〉

具体的には、興味・関心を高めるために、カタログやインターネットでアイロンについて調べたり、専門家（クリーニング店）から話を聞いたりすることで、意欲的に学習に参加できるようにする。実践に関しては、自分なりの掛け方と専門家の掛け方の違いに気付き、よりきれいにアイロン掛けができるようになりたいという意欲や向上心を高め、学習の必然性を高めることができるようにする。その際は、掛ける部位を決め、順番を付けることで活動内容が分かりやすいようにする。また、ワークシートで順番や掛ける時間を確認しながら取り組むことが自己評価し、より良く仕上げるためにどうすればよいか考え、工夫することができるようにする。さらに、評価して発表する際には、十分に考え学習を振り返ることができるように場面や時間を設定する。家庭では、学習で取り組んだワークシートを持ち帰り、ワイシャツのアイロン掛けを実践し、学んだことを振り返ったり、保護者が学習内容や生徒の実態を把握し、称賛したりすることで、家庭の役割として取り組むことができるようにしたい。学習場面のいずれにおいても、自分のものは自分で行うといった意識付けや保護者や友達、教師からの称賛により、できる喜びや満足感を感じることで実践意欲を高めることができるようにする。また、学習全体を通して、取扱説明書や衣類の取扱絵表示を読んで安全に道具を使用することができるようにする。

〈展望〉

アイロン掛けの学習を通して、身だしなみを整える等、快適な衣生活を送ろうとする意識や家庭の役割意識が高まり、生徒たちの家庭生活が広がるとともに、家庭における自己有用感を高めることができるのではないかと考える。

(2) 実態

生徒	身だしなみへの 興味・関心	題材前の実態把握 (アイロン掛け)	学びの特性
M. R (1年, 男)	ふだん着への興味は高くないが、制服の汚れやシャツのしわなどに注意を向けることができる。	中学生のとき授業でシャツとハンカチのアイロン掛けをした経験がある。ていねいにしようとする意識があり、自分なりに工夫して取り組んでいた。	初めての活動を説明する場合は、完成した見本を提示するとより理解しやすい。複数の説明があると、二つ目以降を忘れることがあるので一つずつ伝える方が理解しやすい。
Y. R (1年, 男)	ズボンのすその汚れや頭髮の乱れがあってもあまり気にしない。 衣服による体温調節、TPOに合わせた衣服の選択に課題がある。	今までアイロン掛けの経験はない。操作においては、表面だけのアイロン掛けであり、下に何もなければの確認ができていない。操作中、アイロンをシャツの上に置いたまましていることがあった。	簡単な言葉での説明と具体的な活動の見本(教師のモデル)があると理解しやすい。 前の席の方が集中して授業に臨むことができる。
M. Y (1年, 女)	ふだん着への興味は低く、制服の汚れや乱れについては、教師から指摘があると直すことができるが、自ら注意を向けることは難しい。	中学の時の授業でズボンにアイロンを掛けた経験がある。きれいにそろえてしようとする意識があり、腕の部分は自分なりに考えて取り組んでいた。途中で集中しすぎてアイロン台の上に置いたままの場面があった。	初めて活動する場合は、言語での説明と具体的な活動の見本(教師のモデルや写真など)があると理解しやすい。説明の後に確認をすると、より安心して活動に取り組むことができる。
S. K (2年, 男)	学習の中で、TPOに合わせた衣服の選択やふだん着への関心が高まりつつある。制服でも身だしなみについては意識が高い。	今までアイロン掛けの経験はない。ていねいにしようとする意識はあるが、腕の部分は難しかった。自分でアイロンを置く場所を工夫して、安全に取り組もうとする姿が見られた。	初めての活動では、言語での説明と具体的な活動の見本(教師のモデルや写真など)を示すことで早く覚えることができる。
N. A (2年, 女)	TPOに合わせた衣服の選択が課題。制服(襟やリボン)の乱れについての関心は低い。	自宅でのアイロン掛けの経験はあり、シャツを焦がしたことがあるが、アイロンの操作や効果についての興味は高い。	視覚的な情報(写真やイラスト)を示しながら伝えるとより理解しやすい。また、指示を伝える場合は、簡単な言葉がより理解しやすい。
F. Y (2年, 女)	ふだん着への興味は高いが、季節や場所を考えた衣服の選択に課題がある。	今までアイロン掛けの経験はない。シャツをきれいに広げるのが難しかった。操作においてもていねいにしようとする意識は低い。長い時間同じ部分に置いたままの場面があった。	初めての活動では、ポイントを示したカードを活用することで、より正確に取り組むことができる。 右手にまひがあるため、作業は右手を添えながら左手で行う。
A. M (3年, 男)	ふだん着への興味関心は高く、制服の汚れやシャツのしわなどに注意を向けることもできる。	作業学習の中でアイロンした経験がある。肩の折り目を意識してていねいに取り組もうとする意識が見られたが、襟にはアイロンを掛けなかった。	ほとんどの言語での理解力は高い。手順が多い場合はメモで示すと確実に進行することができる。
B. M (3年, 男)	ふだん着については、自分で選んで買うなど興味が高まってきている。制服(シャツや袖)の乱れに気付き自分で直すこともできる。	今までアイロン掛けの経験はない。ただ表面だけのアイロン掛けであった。裏に何もなければの確認はしながら行っていた。スイッチなどの起動は自分一人で行うことができていた。	周りの刺激(友達の声や動き、工事の音等)が気になり、集中力が途切れてしまうことがある。 ワークシートを活用することで順番や操作などに気を付けて一人で取り組むことができる。
H. S (3年, 女)	おしゃれへの興味は高く、更衣後自分で身だしなみを整えようすることができる。	今までアイロン掛けの経験はない。ボタンの細かい部分も意識して取り組むことができていた。肩・襟まではしていない。スイッチなどの起動は教師の確認が必要であった。	絵や図に描いたり、具体的な活動の見本(教師のモデル)で示したりすることで理解が高まる。文字を書くことや細かい作業には時間が掛かる。

3 指導目標

(1) 全体目標

- 道具の名称や留意事項を理解し、安全にアイロン掛けができるようにする。
- アイロン掛けを通して、自ら身だしなみを整えようとする態度を身に付けることができるようにする。

(2) 個人目標

生徒	本題材に関する課題	具体的な個人目標（規準）
M. R (1年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を習得すること ・ 自分で行うべきことや家庭での役割として実践する態度を身に付けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を覚え、安全に気を付けてアイロン掛けができるようにする。 ○ 自分でワイシャツにアイロン掛けをする等、身だしなみを整えようとする態度を身に付けることができるようにする。
Y. R (1年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を習得すること ・ 身だしなみへの意識を向上すること ・ 家庭で実践しようとする態度を身に付けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を知り、安全にアイロンを操作することができる。 ○ 身だしなみへの意識を高め、自ら実践しようとする態度を身に付けることができるようにする。
M. Y (1年, 女)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を高めること ・ 自分で行うべきことや家庭での役割として実践する態度を身に付けること ・ 身だしなみの意識を高めること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を覚え、安全に気を付けてアイロン掛けができるようにする。 ○ 身だしなみへの意識を高め、自ら実践しようとする態度を身に付けることができるようにする。
S. K (2年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を習得すること ・ 自分で行うべきことや家庭での役割として実践する態度を身に付けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を覚え、安全に気を付けてアイロン掛けができるようにする。 ○ 自分でワイシャツにアイロン掛けをする等、身だしなみを整えようとする態度を身に付けることができるようにする。
N. A (2年, 女)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を高めること ・ 家庭で実践しようとする態度を身に付けること ・ 身だしなみの意識を高めること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を知り、安全にアイロンを操作することができる。 ○ 身だしなみへの意識を高め、自ら実践しようとする態度を身に付けることができるようにする。
F. Y (2年, 女)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を習得すること ・ 家庭で実践しようとする態度を身に付けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を知り、安全にアイロンを操作することができる。 ○ 自分でワイシャツにアイロン掛けをする等、身だしなみを整えようとする態度を身に付けることができるようにする。
A. M (3年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を高めること ・ 自分で行うべきことや家庭での役割として実践する態度を身に付けること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を覚え、安全に気を付けてアイロン掛けができるようにする。 ○ 自分でワイシャツにアイロン掛けをする等、身だしなみを整えようとする態度を身に付けることができるようにする。
B. M (3年, 男)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を習得すること ・ 家庭で実践しようとする態度を身に付けること ・ 身だしなみの意識を高めること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を覚え、安全に気を付けてアイロン掛けができるようにする。 ○ 身だしなみへの意識を高め、自ら実践しようとする態度を身に付けることができるようにする。
H. S (3年, 女)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アイロン掛けの知識や技術を高めること ・ 家庭での役割として定着を図ること 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道具の名称や使い方を知り、安全にアイロンを操作することができる。 ○ 自分でワイシャツにアイロン掛けをする等、身だしなみを整えようとする態度を身に付けることができるようにする。

4 指導計画（総時数13時間）

次	主な学習活動・内容	時数	時間における全体目標
一	<p>1 アイロンの仕組みや必要性、衣類のしわが伸びる仕組みを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイロンの掛かっているものと掛かっていないものを比べその違いを発表する。 アイロンのカタログやインターネットの資料を見てアイロンの操作やしわが伸びる仕組みを調べる。 操作を確認しながらハンカチ等にアイロンを掛ける。 <p>2 アイロン掛けのポイントやクリーニングに出すときの注意点について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> クリーニング店の方をゲストティーチャーとして、アイロン掛けのポイントを聞く。 クリーニングを利用する際の注意点やどのような衣類を出すのかなどのお話を聞く。 	4	<ul style="list-style-type: none"> アイロンの必要性や安全な操作について理解するとともに、アイロンを掛ける際の留意点や手順を知ることができる。 アイロン掛けへの興味・関心を高めることができる。
二	<p>3 ワイシャツにアイロンを掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や家族のワイシャツに順番や留意点を確認しながらアイロンを掛ける。 繰り返し取り組み、どのようにすればきれいにしわを伸ばすことができるかを考える。 スプレーのりや霧吹きなどを使用し、その違いをまとめる。 <p>※ 授業後は家庭で実践し、自己評価し家族からの評価を受ける。</p>	7 本時 (5/7)	<ul style="list-style-type: none"> アイロンを安全に正確に操作し、適切な方法でアイロン掛けをすることができる。 ワークシートを見ながらポイントに気付き、自分で考えてアイロン掛けをし、評価をすることができる。
三	<p>4 家族の衣類にアイロンを掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族が日ごろ着ている服やお気に入りの服を持ってくる。 それぞれ持ち寄った衣類に適したアイロン掛けの方法を調べ、アイロンを掛ける。 畳みまで行き、家庭に持ち帰り家族からの評価を受ける。 <p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の中で気付いたことやできるようになったことをワークシートにまとめ発表する。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 基本を生かし、他の物のアイロン掛けの方法を知り、実践することができる。 学習全体を振り返り、感想をまとめたり評価したりすることができる。

5 本時の学習(9/13)

(1) 全体目標

- アイロンを安全に操作し、適切な方法や部位の順番でワイシャツにアイロンを掛けることができる。

(2) 個人目標

生徒	具体的な目標(規準)
M. R (1年, 男)	○ 左手でワイシャツを押さえながら、順番どおりにアイロン掛けをすることができる。
Y. R (1年, 男)	○ ゆっくりとアイロンを動かしながら、順番どおりにアイロンを掛けをすることができる。
M. Y (1年, 女)	○ 手アイロンでしっかりしわを伸ばしながら、順番どおりにアイロン掛けをすることができる。
S. K (2年, 男)	○ アイロン台にワイシャツを広げる際にしわができないように気を付けて順番どおりにアイロン掛けをすることができる。
N. A (2年, 女)	○ アイロン台にワイシャツを広げる際にしわができないように気を付けて順番どおりにアイロン掛けをすることができる。
F. Y (2年, 女)	○ 手でしっかりしわを伸ばしながら、順番どおりにアイロンを掛けることができる。
A. M (3年, 男)	○ 順番どおりにアイロン掛けをしてワイシャツの細部まで(袖のタック等)気を付けてしわを伸ばすことができる。
B. M (3年, 男)	○ 手アイロンでしっかりしわを伸ばし、順番どおりにアイロン掛けをすることができる。
H. S (3年, 女)	○ しわができないようにワイシャツを広げて、順番どおりにアイロン掛けをすることができる。

(3) 指導及び支援に当たって

本時までには、生徒たちはアイロンを安全に操作することや道具の名称、用途について学習し、ワイシャツへのアイロン掛けを学校や家庭で繰り返し実践してきている。本時では、生徒が常時、安全に活動に参加し、生徒の学びの特性に応じた指導をすることができるように学習グループを編成する。

必然性を高めるために

- ・ 学習ファイルを確認して、これまでに失敗した点や良かった点を確認することで、よりていねいにワイシャツにアイロン掛けをしようとする意欲をもつことができるようにする。
- ・ 身だしなみの面からもアイロン掛けの必要性に気付くことができるようにし、ていねいにワイシャツのしわを伸ばす等の意識をもつことができるようにする。
- ・ 専門家(クリーニング店の方)から受けたアドバイスを基に、アイロンを掛ける部位や順番を明確にすることで、アイロンを掛ける手順に見通しをもって取り組むことができるようにする。

思考・操作を十分に行うために

- ・ 個別に前時までの学習ファイルを確認することで改善点や留意点に気付き、自分で工夫しながらアイロン掛けに取り組むことができるようにする。
- ・ ペアで取り組み、友達の実践を見ることで、順番や留意点をお互いに確認できるようにする。
- ・ 一人で一枚、自分のワイシャツにアイロン掛けをすることで、工夫しながら取り組むことができるようにする。

学習を振り返るために

- ・ ワークシートで仕上がりや順番を自己評価することで、本時の取組を振り返ることができるようにする。
- ・ 個に応じたワークシートを準備することで、順番や掛ける部位の確認および自己評価をしやすいうようにする。
- ・ 友達の発表を聞くことで、自分の取組を振り返り、比較したり次時へ生かそうとしたりすることができるようにする。

実践意欲を高めるために

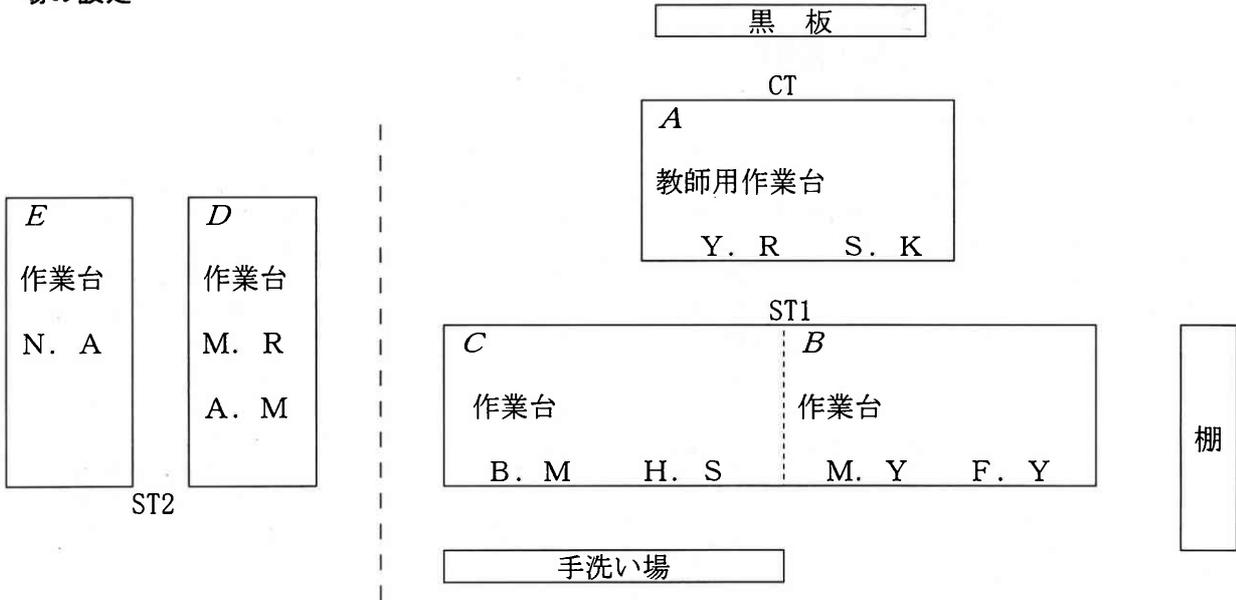
- ・ 仕上がったワイシャツを確認し称賛することで、活動の充実感を高めて自信をもつことができるようにする。
- ・ 家庭でも実践しようとする意欲を高めることができるように、家庭学習の機会を設定し、学習したことを保護者に伝えることができるようにする。また、家庭での様子を紹介することで、学習への意欲を高めることができるようにする。

(4) 実際

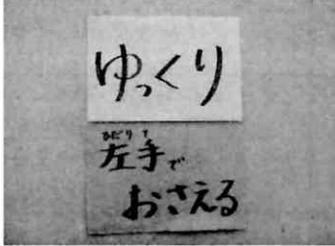
過程	学習活動	具体的な指導及び支援の手立て	資料・準備													
導入 (5分)	<p>1 はじまりのあいさつをする。</p> <p>2 本時の学習を知る。【必然性】</p> <p>(1) 前時の学習を振り返り、本時の目当てと学習内容を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アイロンでワイシャツのしわをきれいに伸ばそう。</p> <p>(2) 学習ファイルを確認し、操作の安全やアイロン掛けのポイントを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりを意識できるように、サインを添えてあいさつをするようにする。 ・ 前時の感想やワークシートを振り返る際に、良くできたことの称賛、改善点を確認し、向上心や意欲を高めることができるようにする。 ・ 本時の学習内容と目当てを確認し、学習の流れや活動に見通しをもつことができるようにする。 ・ 活動前に安全のためにファイルの片付け等について言葉掛けを行う。 	学習ファイル めあてカード													
展開 (30分)	<p>3 ワイシャツにアイロンを掛ける。【思考・操作】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 15%;">A</td> <td style="width: 45%;">Y. R S. K</td> <td style="width: 40%;">CT</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>M. Y F. Y</td> <td rowspan="2">ST1</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>H. S B. M</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>M. R A. M</td> <td rowspan="2">ST2</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>N. A</td> </tr> </table> <p>順番：襟→カフス→前ボタン→そで→背中→前→ハンガーに掛ける</p> <p>※ F. Yは襟→カフス→前ボタン→そで→ハンガーに掛ける</p> <p>・ 終わったら随時ワークシートで評価する。【振り返り】</p>	A	Y. R S. K	CT	B	M. Y F. Y	ST1	C	H. S B. M	D	M. R A. M	ST2	E	N. A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の終了時刻を確認し、時間に見通しをもって活動することができるようにする。 ・ 各部位の留意点について、活動中にも確認することができるように、事前に板書等で示すようにする。 ・ 各々でアイロン掛けの順番や部位を確認しながらできるように、ワークシートは個別に準備する。 ・ ワークシートは生徒の実態に応じて順番やアイロンを掛ける場所などが分かりやすいようにする。 ア 文字を手掛かりに順番と掛ける部位が分かる：A. M イ 文字と図を手掛かりに順番と掛ける部位が分かる：S. K, B. M ウ 文字と写真を手掛かりに順番と掛ける部位が分かる：M. R, Y. R, M. Y, N. A, F. Y, H. S ・ 各グループでは、他の生徒が活動を行っている間、お互いその様子を見て称賛したり、チェックしたりするようにし、学習の中で自ら気付いたり改善しようとしたりすることができるようにする。 ・ 常時安全に活動ができるように、各グループに教師がつくようにする。また、安全に活動を進めることができるように、活動範囲を十分に確保しておく。 ・ あらかじめ制限時間（1人12分）を伝え、アイロン掛けの時間を計測し、手早くする意識を高めることができるようにする。 ・ 経過時間が分かるように、「〇分です」と言うようにする。 ・ ワークシートに基づいて自己評価し実践を振り返ることで、次時の目標につなげることができるようにする。 	仕上がり見本 手順表 アイロン アイロン台 ワイシャツ ハンガー ストップ ウォッチ ワークシート
A	Y. R S. K	CT														
B	M. Y F. Y	ST1														
C	H. S B. M															
D	M. R A. M	ST2														
E	N. A															
終末 (5分)	<p>4 仕上がりを全員で確認し、気付いたこと等を発表する。【振り返り・実践意欲】</p> <p>5 次時の学習内容を確認する。【実践意欲】</p> <p>6 おわりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師用作業台に集合して、それぞれの仕上がりを近くで確認し、相互に評価することができるようにする。 ・ 発表に対して具体的に称賛したり、教師が言葉で補足したりして、学習や活動を振り返ることができるようにする。 ・ 本時の学習を家庭で振り返ることができるように、家庭での活動を説明し、ワークシートを配布する。 ・ あいさつ後、スムーズに移動や行動ができるように、次の活動を伝えてからあいさつをするようにする。 	ワークシート													

※ CT：チーフティーチャー ST：サブティーチャー

(5) 場の設定



(6) 教材・教具

ストップウォッチ	完成した見本	文字カード
		
時間を意識して取り組むことができるようにするため	完成（良品）をイメージすることができるようにするため	操作の留意点，安全を意識して取り組むことができるようにするため F. Y, Y. R用

ワークシート

ア

作業	チェック項目	しりふチェック
1	しりふ こげぬ	
2 カフス	しりふ こげぬ	
3 前ボタン	しりふ こげぬ	
4 そで	しりふ こげぬ	
5 せなか	しりふ こげぬ	
6 前	しりふ こげぬ	
できあがり	やけと	
【自己評価】	【保護者・先生からのコメント】	

イ

作業	チェック項目	しりふチェック
1	しりふ こげぬ	
2 カフス	しりふ こげぬ	
3 前ボタン	しりふ こげぬ	
4 そで	しりふ こげぬ	
5 せなか	しりふ こげぬ	
6 前	しりふ こげぬ	
できあがり	やけと	
【自己評価】	【保護者・先生からのコメント】	

ウ

作業	チェック項目	しりふチェック
1	しりふ こげぬ	
2 カフス	しりふ こげぬ	
3 前ボタン	しりふ こげぬ	
4 そで	しりふ こげぬ	
5 せなか	しりふ こげぬ	
6 前	しりふ こげぬ	
できあがり	やけと	
【自己評価】	【保護者・先生からのコメント】	

(7) 評価

① 個人目標に関する評価

(手立ての評価◎：達成 ○：おおむね達成 △：未達成)

生徒	個人目標の評価基準	評価	具体的な手立ての評価	評価
M. R (1年, 男)	A 左手でワイシャツを押さえながら、順番どおりアイロン掛けをすることができた。		<ul style="list-style-type: none"> 言葉での指示は明確で分かりやすいものであったか。 完成した見本は良品に仕上げるためのモデルとなったか。 	
	B 左手でワイシャツを押さええることは忘れていたが、順番どおりアイロン掛けをすることができた。			
	C 左手の押さえや順番について、常に言葉掛け等を必要とした。			
Y. R (1年, 男)	A ゆっくりとアイロンを動かしながら、順番どおりにアイロンを掛けをすることができた		<ul style="list-style-type: none"> 座席や作業場所は集中して取り組む環境となっていたか。 実習前のワークシートや言葉掛けでの確認は適切であったか。 	
	B ゆっくりとアイロンを動かすことができたが、順番を間違えることがあった。			
	C アイロンを動かすスピードが速く、順番を間違えることがあり教師の支援を必要とした。			
M. Y (1年, 女)	A 手でしっかりしわを伸ばしながら、順番どおりアイロン掛けをすることができた		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動の見本やワークシートは順番を理解しスムーズに活動するために有効であったか。 	
	B しわを伸ばすことを忘れることがあったが、順番どおりアイロン掛けをすることができた。			
	C 手でしわを伸ばすことや順番を忘れることがあり、常に言葉掛け等を必要とした。			
S. K (2年, 男)	A しわができないようにワイシャツを広げて、順番どおりアイロン掛けをすることができた		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動の見本やワークシートは手順を理解しスムーズに活動するために有効であったか。 	
	B しわができないようにワイシャツを広げることは難しかったが、順番どおりアイロン掛けができた			
	C ワイシャツを広げる際にしわができ、順番を忘れることがあり、言葉掛けを必要とした。			
N. A (2年, 女)	A しわができないようにワイシャツを広げて、順番どおりアイロン掛けをすることができた		<ul style="list-style-type: none"> 視覚情報を提示するタイミングや言語での指示は分かりやすかったか。 	
	B しわができないようにワイシャツを広げることはできたが、順番を間違えることがあった。			
	C ワイシャツを広げる際のしわを伸ばさず、順番を忘れることがあり、教師の支援を必要とした。			
F. Y (2年, 女)	A 手でしっかりしわを伸ばしながら、順番どおりにアイロン掛けをすることができた。		<ul style="list-style-type: none"> 文字カードは安全や留意点を心掛けながら取り組むために有効であったか。 	
	B しわを伸ばすことを忘れていたが、順番どおりにアイロン掛けをすることができた。			
	C しわを手で伸ばすことを忘れており、順番を教師と一緒に確認する必要があるがあった。			
A. M (3年, 男)	A 順番どおりにアイロン掛けをしてワイシャツの細部まで気を付けてしわを伸ばすことができた。		<ul style="list-style-type: none"> 工夫したり改善したりといったことを考えながら取り組むことができるような活動を設定することができたか。 	
	B 順番どおりにアイロン掛けをすることができたが、細部に気付けて取り組むことは難しかった。			
	C 順番を間違えることがあり、大まかな部分のみアイロンを掛けた。			
B. M (3年, 男)	A 手でしっかりしわを伸ばし、順番どおりアイロン掛けをすることができた。		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動の見本やワークシートは順番を理解しスムーズに活動するために有効であったか。 	
	B 手でしわをのばすことを忘れることがあったが、順番どおりアイロン掛けをすることができた。			
	C 手でしわを伸ばさず、順番の確認等、常に教師の支援を必要とした。			
H. S (3年, 女)	A しわができないようにワイシャツを広げて、順番どおりアイロン掛けをすることができた		<ul style="list-style-type: none"> 視覚情報を提示するポイントや言語での指示は分かりやすかったか。 	
	B しわができないようにワイシャツを広げることはできたが、順番を間違えることがあった。			
	C ワイシャツを広げる際にしわができており、順番の確認等、教師の支援を必要とした。			

② 全体目標に関する評価

- アイロンを安全に操作し、適切な方法や順番でワイシャツにアイロンを掛けることができたか。